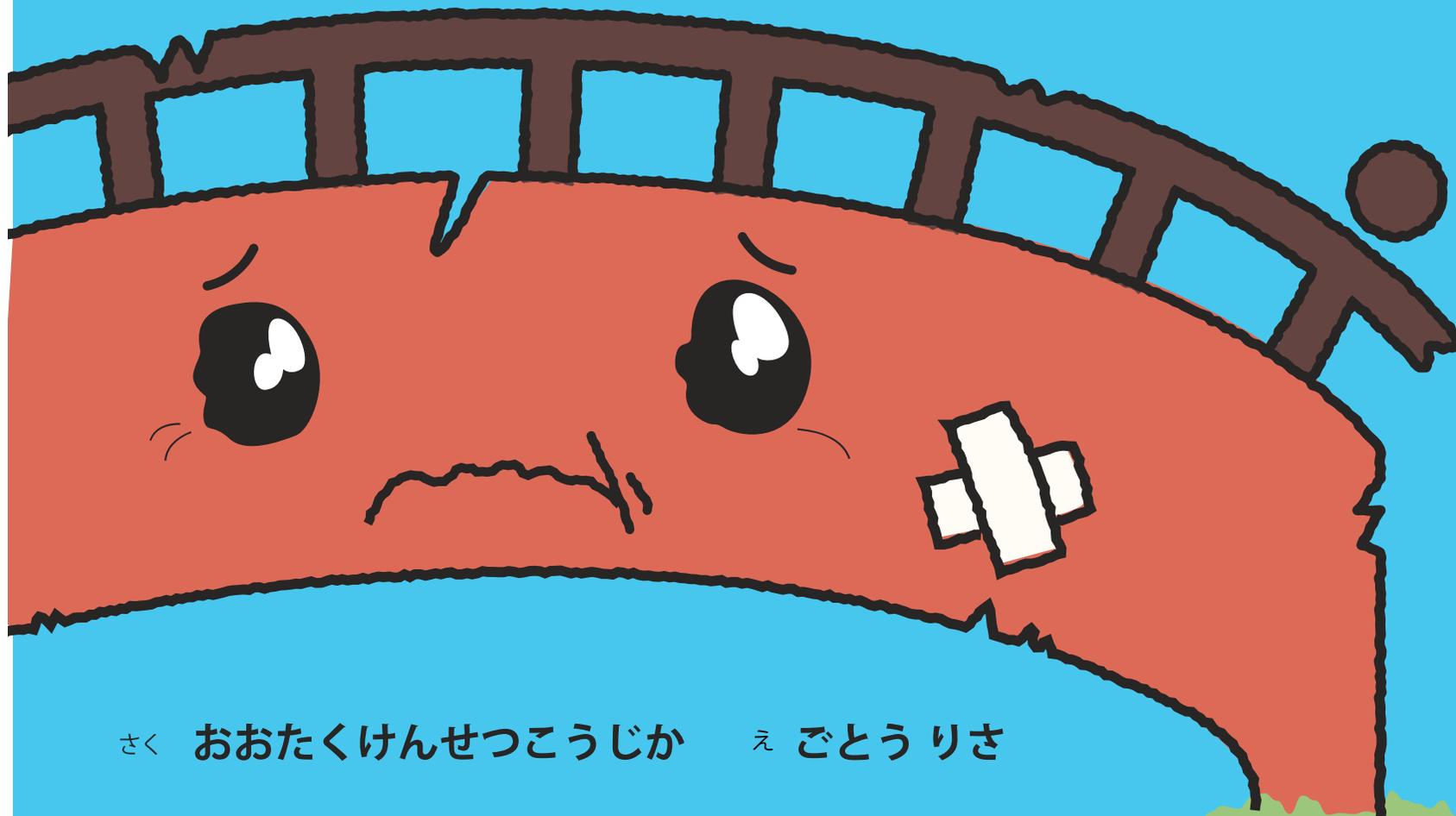


このはしわたるべからず

～メンテナンス編～



さく おおたくけんせつこうじか え ごとうりさ

きかく いんふらちょうじゅみょうかけんきゅうかい

かんしゅう とうこうだい そうごうかんしゅう みつやすくん (とうこうだい)

絵①

むかしむかし、^{おおもりむら}大森村の^{しゅうぜんじ}修繕寺というところに、
^{おてつだい}お手伝いが^{だいすき}大好きな、ちよつとうっかりものの、こそうさんがいました。



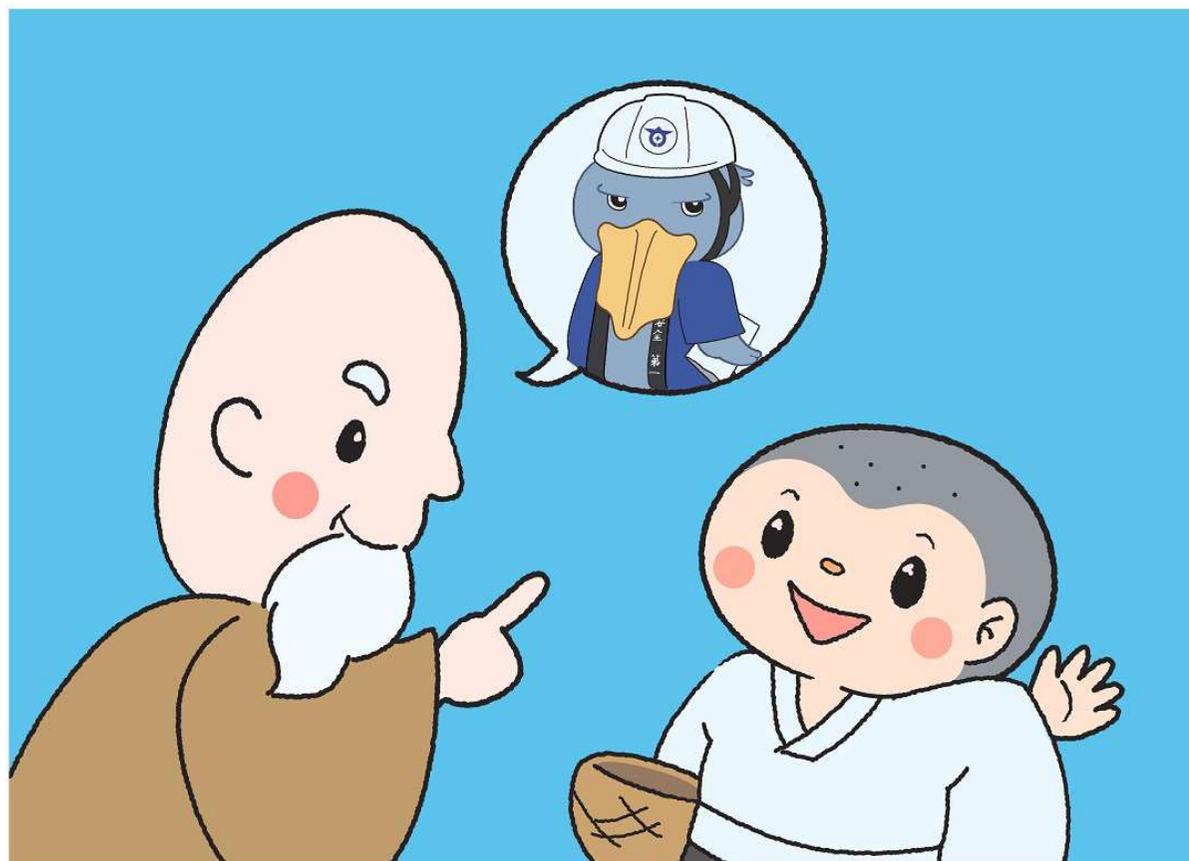


絵②

ある日、こそうさんは、和尚さんからお使いを頼られました。

(和尚さん)「蒲田村のはしもりさんまで このおくすりを届けておくれ」

(こそうさん)「はい」





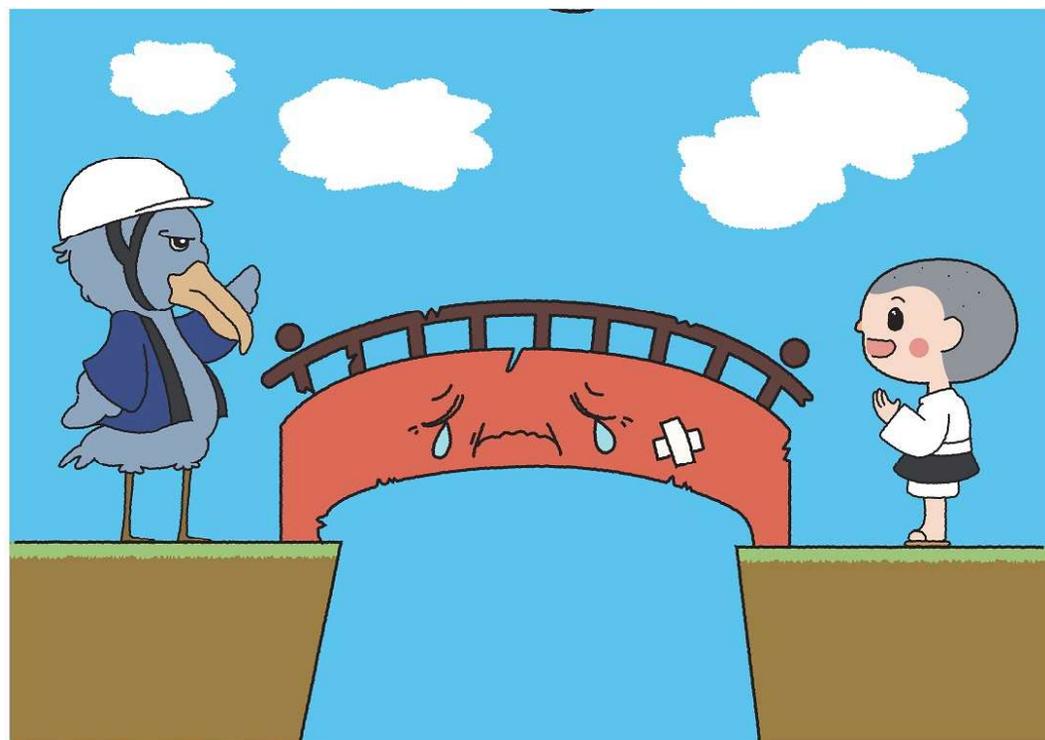
絵③

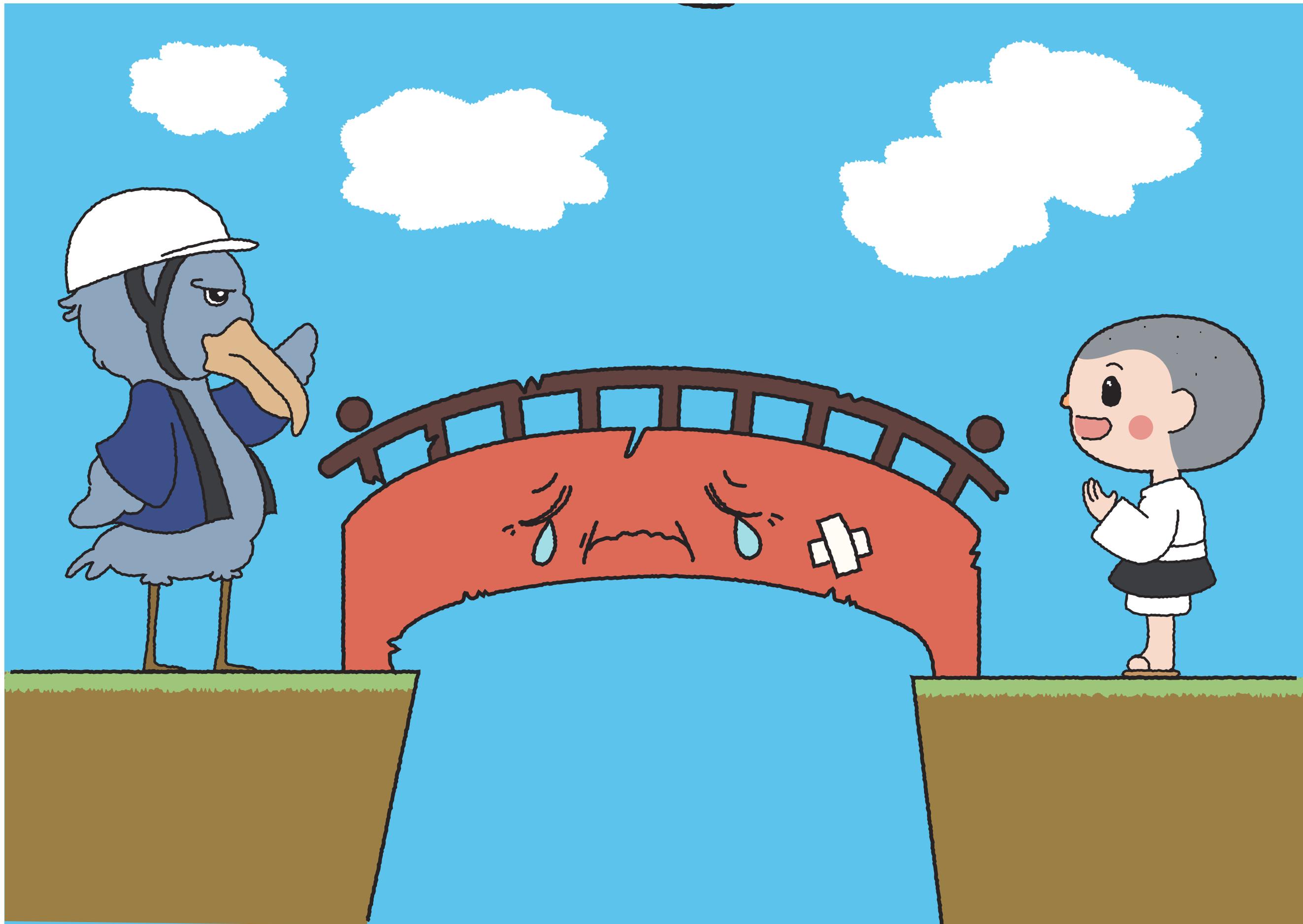
こぞうさんが蒲田村へ渡る橋まで来ると、橋の向こう側に、はしもりさんがいました。

(こぞうさん)「はしもりさん、こんにちは。何をしていますのですか？」

(はしもりさん)「橋さんが イタイイタイと言っているから 様子を見ているのじゃ」

こぞうさんが橋さんをよくみると、たしかに痛そうな傷があります。





絵④

こぞうさんは、はしもりさんと話をしながら、和尚さんに頼まれていたお使用のことを思い出しました。

(こぞうさん)「あっ！そういえば和尚さんにたのまれたお使用のこと すっかり忘れていました！！」





絵⑤

こぞうさんは、てくてくと橋を渡っていきます。

(はしもりさん)「あっ!こぞうさん だめじゃ!」

(橋さん)「うわ〜ん 痛いわ〜!」

橋さんが目をうるうるさせて言いました。





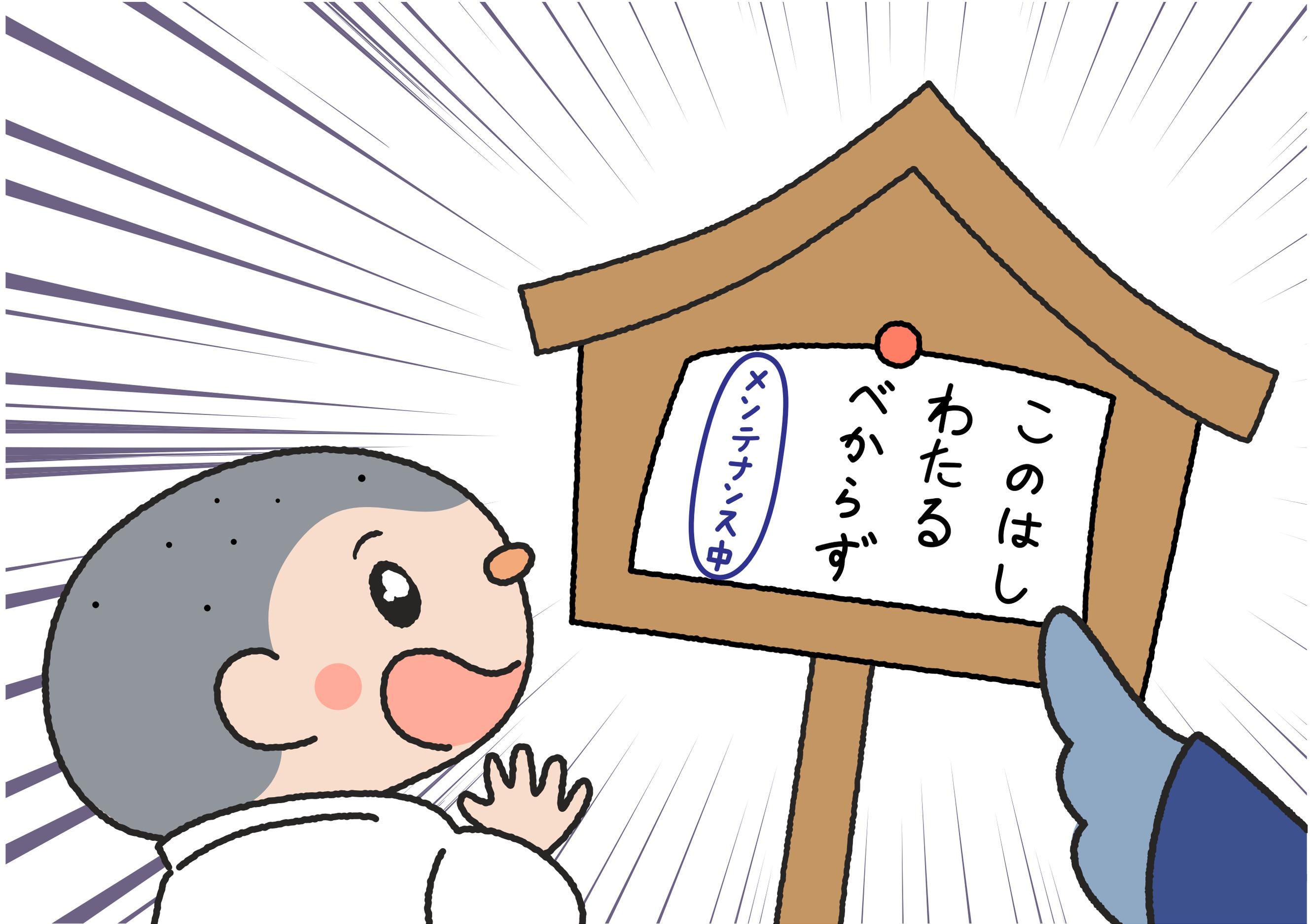
絵⑥

はしもりさんは、こぞうさんに言いました。

(はしもりさん)「この着板がみえなかったのかい!？」

(こぞうさん)「あっ!ほんとだ!全然みていませんでした……。」





メンテナンス中

このはし
わたる
べからず

絵⑦

(こそうさん)「そういえば、和尚さんから、はしもりさんに渡してほしいというかごを預かっています。」

(はしもりさん)「なんと！それを早く言わんか！！」

(こそうさん)「何がはいつているのかなあ？」





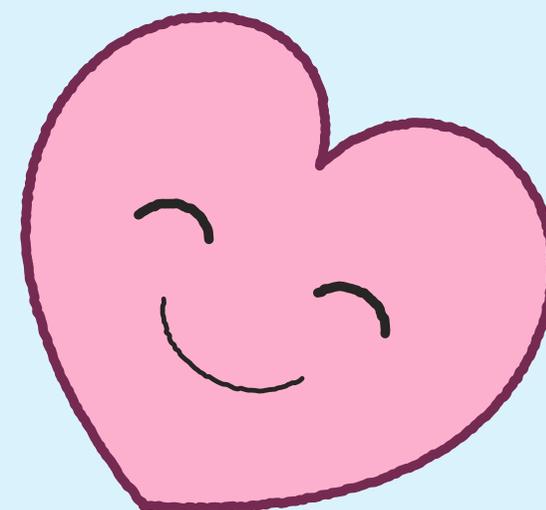
絵⑧

かごの中身は何でしょう？

(こぞうさん)「和尚さんは おくすりと言っていました。」

(はしもりさん)「水、砂、セメント…それからみんなの思い…これは橋さんのためのおくすりじゃ。」





絵⑨

はしもりさんと一緒にこそうさんは一生懸命、橋さんのためにおくすりを塗ってあげました。

ほかのこそうさんたちも集まってきました。

みんなで橋さんをきれいにしています。





絵⑩

すると橋さんは、ひびわれのしわも取れてお肌もピッカピカ、なぜか、まつ毛も長くなっています。

(橋さん)「わ～、痛さもなくなって すっきりしました。なんだか若返ったみたいだわ！

はしもりさん、こぞうさん、みなさん、どうもありがとう！」

(こぞうさん)「良かったです～！」

(はしもりさん)「一件落着じゃ。こぞうさん、ありがとう。和尚によろしく伝えておくれ。」





はしもりさんやこそうさんたちが やってくれたことは『橋のメンテナンス』といいます。

これは 橋さんが長生きするために とても大切なことなんです。

今日をきっかけに 橋さんを渡るときに このことを思い出してもらえたら、

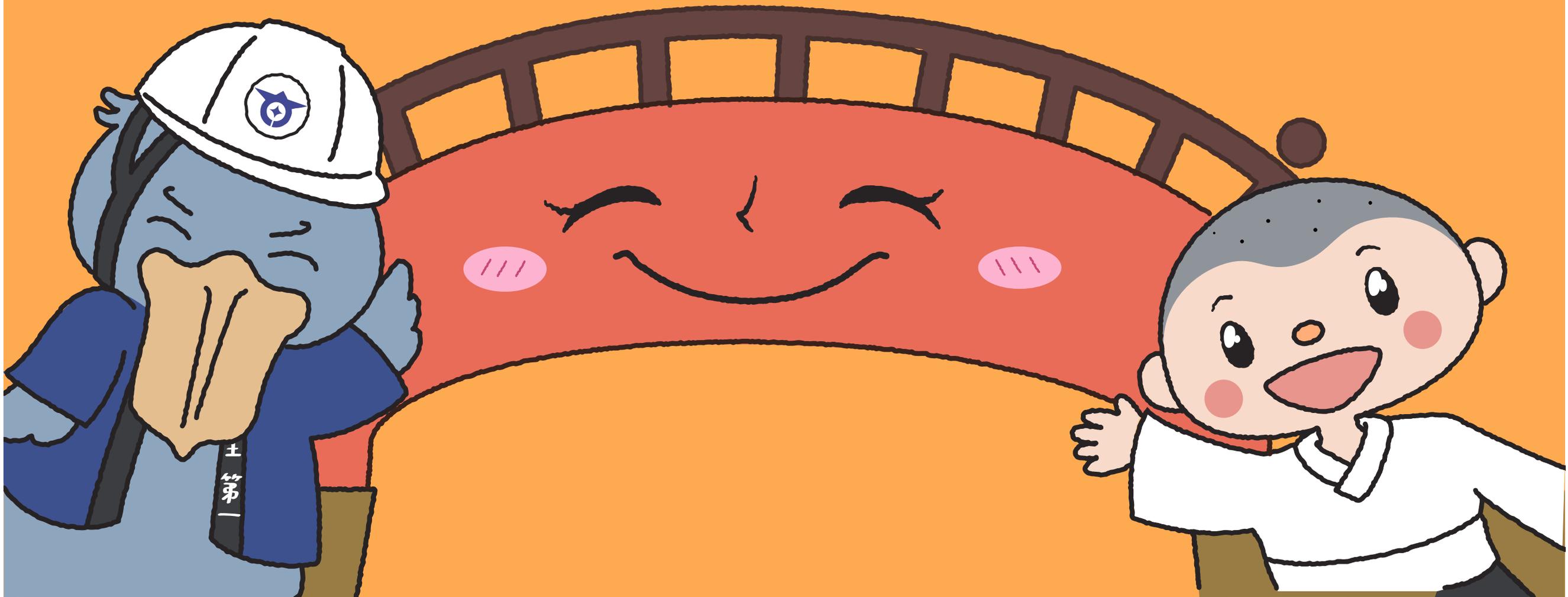
それから、自分もメンテナンスのお手伝いをやってみたいな、と思ったら声をかけてもらえるとうれしく思います。

おしまい



おしまい

はしさんと出会ったら大切にづかってね！



表紙

みなさんに橋のことを知ってもらいたいという^{おも}思いから、紙芝居^{かみしばい}をつくりました。

紙芝居^{かみしばい}「このはし わたるべからず メンテナンス編^{めんてなんすへん}」のはじまり、はじまり！！

